

◇本号では、「とびら」では田中秀治先生（徳島大学大学院薬学系）が論文執筆の大切さと大学で研究を続けることの難しさと楽しさを語っている。分析化学は様々な分野で利用されているが、最近の“ぶんせき”誌では医薬や生命科学に近い分野で利用されている分析技術が紹介される機会が増えている。日本ではまだまだ新型コロナ感染症が猛威を振るい続けていることも、こうした分野に注目が集まっている一つの理由と考えられる。一方で、重症化率が低下していることを理由に、過去最大の感染者数と死者数が記録されているにもかかわらず行動制限を行わないまま夏を超え、秋を迎えようとしています。本会も春の討論会に続いて、秋の年会对面形式で開催されることとなり、学会会場には懐かしい賑わいが戻ってきています。直接会って議論ができる喜びを感じながらも、どこかで「大丈夫か？」と不安を感じながら、学会活動を続けています。

◇さて小職は、本「ぶんせき」誌のホームページ（HP）の制作・管理・更新作業を行っています。研究で学会に貢献することは難しい状況ですが、コロナ以前から関わっていたHPの作製やオンラインシステムの構築から引き続いて「ぶんせき」誌の電子化を担うことになりました。2021年3月からかわり、1年半が経過しようとしています。会員の皆様から見ると、“分かりやすい・使いやすいサイト”にはなっていないかも知れません。急激に変化するIT環境の中で「ぶんせき」誌のHPが、皆様の日々の努力や研究成果をより多くの方々に発信できるデジタルな“場”となれるように、これからも画面の向こう側で隠れた努力を続けてゆきたいと思っています。 [T. T.]

〈とびら〉

交流と研究の活性化を支える支部活動……………富安卓滋

〈入門講座〉 地球環境問題へのとびら

食糧問題（水産資源管理）……………松林 順

〈講 義〉

エクソソームの捕集・計測法……………金田 隆

〈ミニファイル〉 衛生と安全

実験室の事故事例を踏まえた防火対策……………富田賢吾

〈特 集〉 分析科学のSDGs

SDGsと女性研究者ネットワーク活動……………金澤秀子  
(他6編)

◇ 編 集 委 員 ◇

〈委員長〉 勝田正一 (千葉大院理)		
〈副委員長〉 菅沼こと (帝人 株)		
〈理事〉 津越敬寿 (産業技術総合研究所)		
〈幹事〉 坂牧寛 (化学物質評価研究機構)	東海林 敦 (東京薬科大薬)	菅 寿美 (海洋研究開発機構)
	富岡賢一 (三菱マテリアル株)	村居景太 (株共立理化学研究所)
〈委員〉 市場有子 (ライオン株)	稲川有徳 (宇都宮大院地域創生科学)	岩井貴弘 (理化学研究所)
	岡村浩之 (日本原子力研究開発機構)	高橋あかね (オルガノ株)
	田中佑樹 (千葉大院薬)	齊藤和憲 (日本大学生産工)
	永谷広久 (金沢大院自然科学)	谷合哲行 (千葉工業大先進工)
	福島健 (東邦大薬)	中原佳夫 (和歌山大システム工)
	三浦篤志 (北大院理)	堀田弘樹 (神戸大院海事科学)
	森山孝男 (株リガク)	宮下振一 (産業技術総合研究所)
		山崎由貴 (国立医薬品食品衛生研)
		野間誠司 (佐賀大農)
		照井教文 (一関高専)
		松神秀徳 (国立環境研究所)
		森 勝伸 (高知大理工)

☑ 複写される方へ

日本分析化学会は学術著作権協会（学著協）に複写に関する権利委託をしていますので、本誌に掲載された著作物を複写する場合は、学著協より許諾を受けて複写してください。

〒107-0052 東京都港区赤坂9-6-41 乃木坂ビル3階  
一般社団法人 学術著作権協会

FAX：03-3475-5619 E-mail：info@jaacc.jp

なお、複写以外の許諾（著作物の転載願い等）は、学著協では扱っていませんので、直接日本分析化学会へお尋ねください。

ぶんせき 2022年第10号（通巻574）

2022年10月1日印刷

2022年10月5日発行

定価1,000円

編集兼発行人 公益社団法人 日本分析化学会

印刷所 〒173-0025 東京都板橋区熊野町13-11

株式会社 双文社印刷

発行所 〒141-0031 東京都品川区西五反田1-26-2

五反田サンハイツ304号

公益社団法人 日本分析化学会

電話 総務・会員・会計： 03-3490-3351

編集： 03-3490-3537

FAX：03-3490-3572 振替口座：00110-8-180512

© 2022, The Japan Society for Analytical Chemistry

購読料は会費に含まれています。